
ポーカーフェイス2

枝豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポーカーフフェイス2

【Nコード】

N0753B

【作者名】

枝豆

【あらすじ】

「ポーカーフフェイス」の続編です。相手に、大きな変化がおきました。

(前書き)

実話です。

マジで、泣きそう。

陸上部で、長距離選手だった彼を好きになって早一年。

無口な彼となかなか会話ができなくて、もどかしく感じていたここ最近。

ようやく、話せるようになったのに。

こんな風に、片思いが終わるとは思ってもいなかった。

男友達とメールしていたとき、なぜか話題は自分たちの恋の話へ・・・。

友達の愚痴を聞きながら、私は徐々に言わざる終えない状況へと追い込まれていった。

「ところで、マーは？」

ついに、話は私のことへ・・・。

上手く、交わしていたつもりなんだけどな。

「私は、野田真・・・かな？」

こう返してから、友達から約30分返信がなかった。

「もう返ってこないのか・・・？」

携帯の電源を切ろうとしたとき、友達からメールが返ってきた。

「シンなら今日彼女できたよ。」

返ってきたメールを見て私は泣きそうになった。

しかも相手は私の友達でもあり、学校の中で男子女子どちらとも人気のある人でした。

私は、回らない頭でこう返しました。

「そっか、仕方ないや。私はともかく、他の子たちは大丈夫かな。発狂とかしてなければいい けど……。」

もし、これが電話だったらどうにもできなかったとおもいます。今の、私の感情を隠すことができてなかっただろう。

それから、いくつかのメールのやりとりをし、私は眠りについた。

次の日、私は頭痛と腹痛を訴え、学校を休んだ。

布団の中で横になりながら、私は泣いた。これでもかというくらい泣いた。

諦めたくない。

諦めたくないんだけど……。

泣きじゃくっていた私は、次第に冷静さを取り戻しある一つの結論に行き着いた。

告白はしよう。

自分が自分に「きれい」と言えるようになったら。望みなんて無いだろう。

でも、諦めきれない。

これから、私は自分と戦う。

好きな人に好きって言ってもらえるように。

(後書き)

これは、本当のお話です。

本当に泣きましたよ。

どんなに好きなのかを実感してしまいました。

勢いに任せて書いたので、小説として成り立っているのか微妙ですが感想が欲しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0753b/>

ポーカーフェイス2

2010年10月17日03時54分発行